第6講　使役形

PART1　Vさせる・NにVさせる

① 助動詞を使ったもの

i 「Vさせる」

使・**令**・**遣**・教・俾 レV　〈読〉 V**しム**

※Vは未然形に活用させる。

(例)

使レ求。〔　　　　〕（求めさせる。）

遣レ還。〔　　　　〕（帰還させる。）

令二歩行一。〔　　　　〕（歩かせる。）

ii 「NにVさせる」

使 **令** **遣** 教 俾 ［二］ N V ［一］

〈読〉 Nヲシテ V**しム**

※N＝使役の対象。助動詞の**直下**の**名詞**（人が多い）。

（例）

遣［二］武還［一］。〔武　　還らしむ。〕（蘇武　　帰還させる。）

注　武…蘇武。人名。

使人愁。〔　　　　〕（　　　　）

注　愁…「愁（うれ）ふ」。わびしく思う。

★使役の助動詞があれば、**下**の部分から、まず「　　」を探す！

使役の助動詞の直下の名詞には「　　」の送り仮名を送る！

第6講　PART1　確認問題

① 使役の助動詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不　　イ　被　　ウ　也　　エ　令

② 「使㆑作。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　作らず。　　イ　作らしむ。　　ウ　作るべし。　　エ　作りたる。

③ 「人をして呼ばしむ。」と読むには、返り点をどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　使㆑人呼。　　イ　使人㆑呼。　　ウ　使㆑人㆑呼。　　エ　使㆓人呼㆒。

④「使㆓三子相継立㆒。」は「三人の子に順番に王の位につかせた。」という意味である。読み方として正しいものを、次の中から選べ。

ア　三子をして相継いで立つ。
イ　三子をして相継いで立たしむ。
ウ　三子を使ひて相継いで立つ。
エ　三子を使ひて相継いで立たしむ。

⑤「令ム㆓四面ノ騎ヲシテ馳セ下ラ㆒。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四方に面した騎馬兵が駆け下っていった。
イ　四方に面した騎馬兵に向かって駆け下った。
ウ　四方に面した騎馬兵に駆け下らせた。
エ　四方に面した騎馬兵が駆け下るはずだった。

第６講　PART1　解答

①　ⅰ　〔求めしむ。〕
〔還らしむ。〕
〔歩行せしむ。〕
ⅱ　〔武**をして**還らしむ。〕（蘇武**に**帰還させる。）
〔人をして愁へしむ。〕（人に愁えさせる。）

第6講　PART1 確認問題　解答

〈解説〉

① いずれも助動詞としての働きはあるが、使役の用法はエのみ。よって、エが正解。

② 「使」は使役の助動詞として用いる場合は「しム」と読む。よって、イが正解。

③ 「NヲシテVしム」という使役の句形。まず、使役の助動詞「使」の直下にある使役の対象Nを「ヲシテ」という送り仮名を補って読む（「人をして」）。次に「～させる」内容である動詞を未然形で読み（「呼ば」）、最後に助動詞「使」を「しむ」と読む。この順で読めるのはエ。よって、エが正解。

④ 「～させた」という意味から、「使」は使役の助動詞「しム」と読むことがわかる。下の部分から動詞を探すと「立」がある（ここでは「相継」が上についている）。「使」の直下にある「三子」が使役の対象で「をして」の送り仮名を送る。よって、イが正解。

⑤ 「令」に「ム」と送り仮名があり、その直下の「四面騎」にも「ヲシテ」と送り仮名があることから、「NヲシテVしム」（＝NにVさせる）という使役の句形であることがわかる。使役で訳しているものはウ。よって、ウが正解。

〈解答〉

① エ　② イ　③ エ　④ イ　⑤ ウ